

令和 6 年 9 月 25 日

幕別町議会議長 寺林 俊幸 様

広報広聴委員会委員長 小田 新紀
外 3 名

議員派遣結果報告書

令和 6 年 6 月 26 日に決定された議員派遣について、次のとおり報告する。
記

1 派 遣 名

議会広報研修会[北海道町村議会議長会主催]

2 目 的

議会広報作成に必要な知識・情報を習得し、より住民に親しまれる「議会だより」を発行するため。

3 派遣場所

ポールスター札幌（札幌市中央区）

4 派遣期間

令和 6 年 8 月 20 日（1 日間）

5 派遣議員

小田新紀、酒井はやみ、藤谷謹至、藤原 孟（以上 4 名）

6 派遣内容

- ・ 内容 講義・クリニック
- ・ 演題 「読者に読まれる議会報の企画と編集」
- ・ 講師 一般社団法人 自治体広報広聴研究所
代表理事・広報アドバイザー 金井茂樹 氏
- ・ 所感 広報広聴は住民・議会・行政、双方間の意識・行動変容を促進し、それぞれの信頼・協働関係を構築・維持するよき関係づくりが重要である。

目指す議会報はどのようなものなのか。例えば「コンクールを目指す」「デザイン重視」「読みやすい・わかりやすい広報」など目標とする議会報を明確にし、現状と目標のギャップを認識することによって課題が見えてくる。現状から目標に至るプロセス

において、何から解決し、使えるリソース（ヒト・カネ・モノ）は何か、いつまでに解決するのかを決定する。

議会が住民の声を聴いていることや議案を慎重に審議していること、行っている研修や調査研究が町の課題解決にどのように結びつくのか伝わる内容にすること。多くの住民の登場を心掛け、予算・決算・重要案件には必ず住民と議会それぞれの視点を掲載する、行政用語や議会用語はできるだけ使用せず言い換えや注釈をつける、見出しや「問・答」は文字数をそろえるなど、読み手の視点に立った見やすくわかりやすい専門的なレイアウト方法を学べたことは貴重であった。

また、住民生活に与える影響を考慮して情報量を削減することや質を向上するため住民に影響を与える事業や関心事を優先させ条例や人事などは思い切って削減するなど掲載する議案を選択し深堀すること、図・グラフ・表などの質を上げ、関連記事はホームページへ導くなど他のメディアと連携させる工夫も必要であり、その際ウェブサイトは多様な広報媒体の着地点として、よりやさしくわかりやすい内容へ改善が必要だと感じた。

更に広報クリニックでは実際の各町村の議会報の診断を行い、良い点・改善すべき点をわかりやすく解説し、すぐ取り入れられそうなテクニックなどが非常に参考になった。

今後も、議会報が住民と一緒にまちづくりを進める媒体として有効に機能するよう企画やレイアウトの見直しを含め改善策を議論することが必要であると実感した。



8/20 議会広報研修会



8/20 議会広報研修会